

# 検索を超えた「対話型推論エンジン」の正体

〔 過去：情報の「検索」 〕

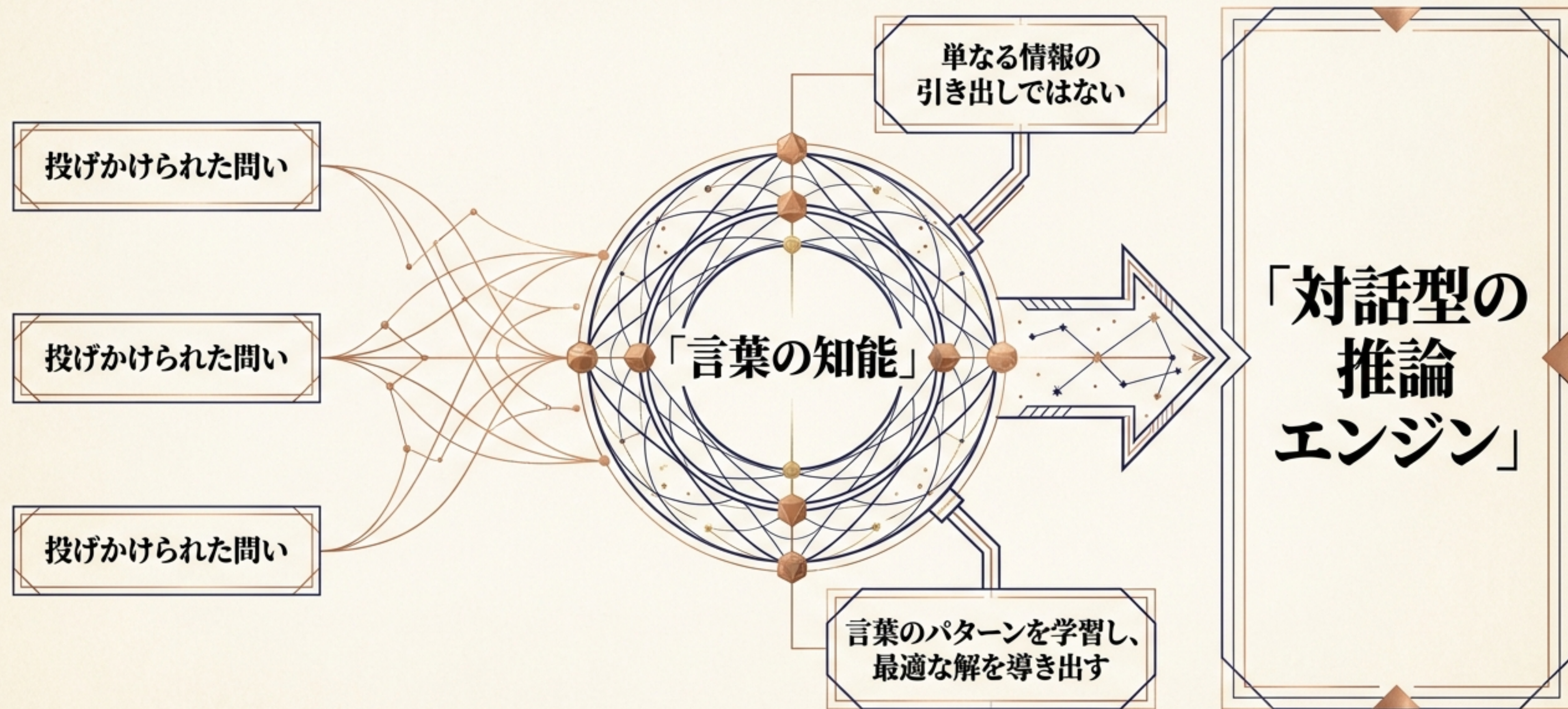


〔 現在：知識の「推論」 〕

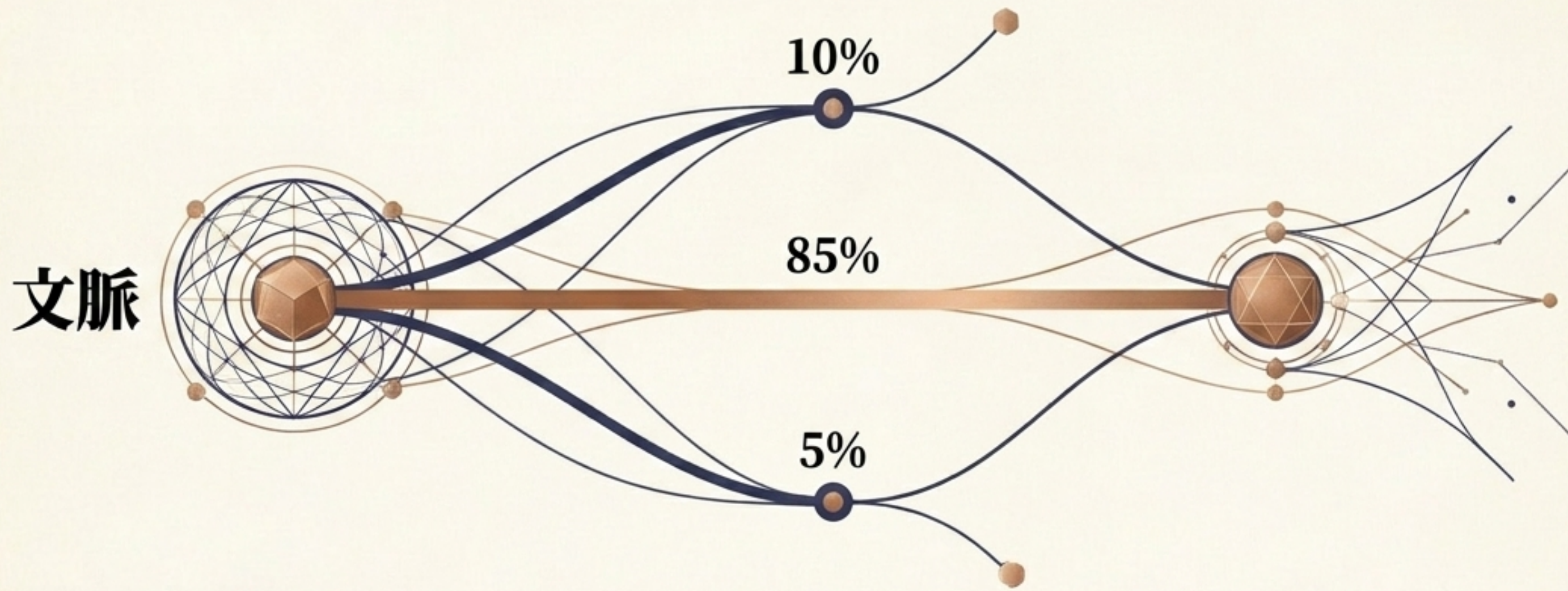


AIを単なる「事実の検索機」として使っているなら、その真価の10%も引き出せていない。

# 検索エンジンではなく、言葉を操る「知能」である



# 魔法ではなく、高度な「次の一語の予測」ゲーム



## 「膨大なテキストデータからの学習」

インターネット上のデータから「どの言葉が続くのが最も自然か」を統計的に把握。

## 「文脈に合わせた回答」

確率の連続により、対話の中で最適な繋がりを生成。

# 膨大な知識を圧縮し、新たなアイデアを組み立てる

## 圧倒的な要約力

何万ページもの知識



## 圧倒的な構築力

新しいアイデア



検索が「探す」作業なら、LLMは「まとめる・創る」作業のパートナー

# 統計モデルが抱える「事実性」と「鮮度」の構造的限界



## 限界1：事実性の欠如

確率的に「もっともらしい」言葉を繋ぐため、嘘（ハルシネーション）を生成するリスク。

## 限界2：情報の鮮度

学習データのカットオフにより、最新の事象やリアルタイムな検索には不向き。

推論エンジンは「真実の泉」ではない。事実確認（ファクトチェック）は常に人間の役割である。

# 人間が「問い」を立て、AIが「推論」を回す共創関係



検索エンジンのように「答え」を求めるのではなく、  
優秀な思考のパートナーとして「共に創る」マインドセットへ。